



～県大と地域をつなぐ～

この情報紙は、県立広島大学庄原キャンパス（以下「県大」と表記）の学生や教授が、どんなことを行っているのかだけでなく、市内で学生と活動している人たちを紹介し、大学と地域をつなぐことを目的としています。



オープンキャンパスが開催されました！！

*タイトルにある「はげら池」は県立広島大学庄原キャンパスにある池の名称です。

8月5日（土）に県大で開催されたオープンキャンパスに、県内外から受験を希望する生徒、保護者等、約400人が訪れました。

県大の学部学科案内や模擬講義のほか、各研究室では先生方の日頃の研究内容紹介があり、これから県大を目指す生徒の皆さんへPRをさせていただきました。

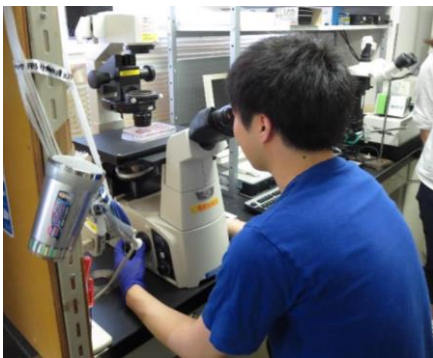
今回は、その研究内容を中心にオープンキャンパスの様子を紹介します。



県大で栽培された食材を利用し無料で提供された学食

生命科学科 齋藤 靖和 研究室

日焼けの原因メラニン色素を見てみよう！



研究室では精度の高い顕微鏡で、がん細胞を観察することができました。
(研究室の学生さんによる説明)

齋藤教授の研究室では、日焼けにより皮膚が黒くなる原因の一つ「メラニン色素」の体内での生成を試験管の中で再現。また、舌がんのがん細胞を顕微鏡で見たり、日焼けとがんの関係性や仕組みなどの説明がありました。

教授は、がん以外にも老化防止や美白・抗しわといった皮膚防護のための新しい素材の探索・研究開発に取り組み、この研究成果を活かして、様々な病態を予防・改善し、人々の健康・長寿へと貢献できる新規バイオ素材の開発を目指されています。

また、研究につながる成分を探求するため、植物成分の研究を行っている方や企業・団体との共同研究も積極的に行われているそうです。

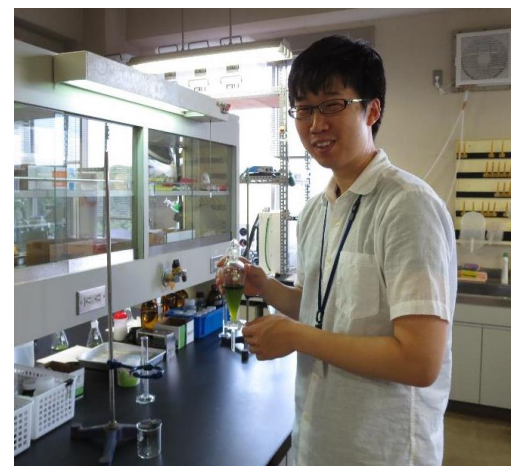
生命科学科 山本 幸弘 研究室

身近な野菜から色素を抽出してみよう！

山本准教授は、油脂の酸化防止法や機能性脂質の開発などを専門に研究されています。

今回は、脂溶性機能成分として、ニンジンから老化現象を食い止めるベータカロテンを、ほうれん草からはたくさんの健康増進作用があるとされているクロロフィルという成分を抽出・分離精製する実験をされました。特殊な試薬を張ったガラスの上に、野菜から抽出した液体を載せ、観察していると時間が経つにつれいくつかの色が現れ、抽出した液体には、様々な成分が存在することが分かりました。

例えば、ほうれん草は初め濃緑色だけだったものが、黒や黄色などの色が現れ、クロロフィルだけでなくベータカロテンなど他の成分も入っていることが実証されました。



野菜の色素を抽出する方法について説明された山本准教授

石油に代わる炭素資源を里山でさがそう！



研究室では学生の皆さんが研究成果を説明

青柳准教授は、植物の主成分である「リグニン」素材が何に活用できるのかを研究されています。その研究を解りやすく説明するため、オープンキャンパスではリグニン素材を活用し、水をはじく撥水効果のある紙を開発され「沈まない紙の船」の作成・実演を行われました。

また、准教授は、戦後まで県北部で生産されていた漆に着目し、この復興に力を入れていると話されていました。

8月20日（日）には、三次市民ホールきりり「備後漆の未来・・・は？～備後漆の復活と将来の可能性について～」という演題で講演が行われる予定です。

フィールド科学教育研究センター

2学科の教育を融合したユニークな科学教育分野による教育

フィールド科学教育研究センターは、中山間地域の資源や環境を活用して、食料・環境に関わる多様な現代的問題の解決に貢献する人材を育成するための施設です。ここでは、食料・環境に関連する地域活動の知的拠点として、資源開発・環境保全・化学分析など地域に根ざした高度な研究活動が行われています。



施設見学の様子。炎天下の中での見学となり、参加者には麦わら帽子が配られました。

当日は、施設の概要説明及び見学の後、甲村研究室の蔬菜園芸学講座で行



アスパラガスの食味アンケート。6種のアスパラガスを食べ比べ、食味等を評価

っている研究に活かすため、グリーンアスパラガスを基準に3種類のホワイトアスパラガスと紫アスパラガスを基準にさくらアスパラガスの外観と食味に関するアンケートが実施されました。アンケート内容は、実際にアスパラガスを食べ比べながら、形や色合いといった見た目と香りや甘み、苦味、えぐみなど食味に関しての評価でした。

最後は、参加者に県大の農園で育ったブルーベリーとデラウェアがプレゼントされました。



県大で栽培しているさくらアスパラガス

編集後記

先生方と話していると地域の活性化に繋がる材料はたくさんあるなと感じます。

青柳先生は備後漆を復活させて将来は宮島で使ってもらいたいと話していました。

こういった思いを持ってアサヒの森でも植林をされていますが、市民の皆さんには、あまり知られていないと感じています。

大学の先生の研究を活用して地域の活性化に繋げるために、少しでも市民の方や学外の方に知ってもらうための力になればと感じました。



地域おこし協力隊
日置 大輔